

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年3月

事業所名: ハッピーテラス吹田教室

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		事務室を極力最小限として指導訓練室のスペース確保に努めています。	保護者見学室はマジックミラーを入れて、子ども達が集中して療育を受けられるよう配慮しています。
	2 職員の配置数は適切である	○		利用者10名に対して3人以上の職員を配置しています。	特性の強い児童が来所する場合は想定して加配の人員を置いています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされている	○		室内は段差無く全てフラットにしています。	施設出入口は自動扉であるが、終日自動スイッチは解除して手動にしている。またインターホンを設定して来所がわかるようにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃は基より、療育室や見学室には必要以上の物を置かないように工夫をしています。	保護者用見学室にあるものを施錠をしたり、子供の手の届かない位置へ置いています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の支援記録に児童ごとの個別支援計画の評価を実施しています。	支援記録作成時職員同士で日々振り返りを実施しています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回を目途に保護者様に対するアンケートを実施しています。	アンケートの回収率を上げるため内容や提出方法の工夫などを行っています。事業所運営にかかる忌憚ない意見をお伺いし業務改善を実施していきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		2024年3月中旬に公表します。	年に1回以上の保護者様の声を聞いて情報公開していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	実施事例はありません。	今後は保護者様や子供たちの支援を更に質の高いものをするために第三者の評価を検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		本部でのトレーニング研修や外部研修への参加及び資格取得を行い質の向上に努めています。	外部研修は日程や人員配置の関係で頻繁の参加が難しいため、オンラインで400種類以上ある研修動画を纏めているジョブモデルアカデミーへの利用を行う。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ご利用前にアセスメントを行い保護者より情報共有を頂いています。またモニタリングを半年に1回以上実施し、ニーズや学校での様子をお聞きしています。	今後も子ども達の支援に役立てるよう課題の共有を行っていきます。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールを用いて保護者様からヒアリングした内容をデータベース化しています。	アセスメントツールの使用と同時に、日ごろから子ども1人1人の変化に気づけるように支援をしていきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに即した支援を行うとともに保護者のご要望のニーズも踏まえ療育を提供しています。また個別以外にも小集団療育を設けて就学にあたっての集団活動になじめるよう支援をしています。	引続きガイドラインに即した支援を行うとともに保護者のご要望もお聞きしながら療育を提供していきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		短期目標、長期目標に基づき療育を提供しています。	引続き支援計画に沿って支援していきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		立案は当日個別療育を担当する職員が行い考案内容を全員で共有しています。	1人の意見だけではなく、職員全員の意見が聞きながら引続きよりよい療育を提供していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々テーマを決め実施しているが、来所する児童にあわせて考案の内容に変化をつけています。	テーマに沿ってトレーニングを実施していますが、個別療育とあわせてながら支援を進めていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		当事業所においては個別療育を主軸に置っていますが、小学校準備・幼稚園準備・SSTの小集団をコースを設けています。	引続き子どもの特性に配慮していくとともに、保護者からのニーズをお聞きしながら必要な提案をしていきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日のトレーニング内容を職員間で事前に情報共有しています。	今後も子ども達の支援のために職員間で情報共有を行っていきます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録記載の際に、職員が気付いた点や気になった点を振り返り共有しています。また公休等で休暇をとったスタッフについては翌営業日に記録の確認と申し送りにて共有しています。	情報共有を行い、個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。
	19 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援計画の目標を確認しながら支援日誌を作成しています。	上記記載の通りですが、個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施しています。また必要に応じて保護者に来所して頂き相談の機会を設けることもあります。	個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		状況を踏まえて、その場にふさわしい事業所の代表が参加をしています。	引続きサービス担当者会議開催の場合には参加をしていきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者様から同意を頂き関係機関への情報共有を行い、必要があれば訪問をし情報共有を図っています。	引続き子どもの支援を行う上で学校との情報共有をします。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	現在医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	医療的ケアが必要な場合には、事業所で万全な体制を整えていけるかを引続き確認して受け入れを検討していきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	現在医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	医療的ケアが必要な場合には、事業所で万全な体制が敷いていけるかを引続き確認して受け入れを検討していきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて対応をしています。ただし、保護者の同意を得ながら保育所等の先生の状況を鑑み適切に対応をしています。	引続き関係機関との情報共有を図っていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて対応をしています。ただし、保護者の同意を得ながら保育所等の先生の状況を鑑み適切に対応をしています。	保護者からのご要望、事業所として連携が必要と判断した場合は学校との情報共有を図っていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		地域にある子ども発達支援センターと連携しています。	研修などは積極的な参加ができていないので、今後は研修会実施の案内が来た際は参加をしていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	現時点で事例はございません。	必要に応じて保育所等との交流の機会を設けて参ります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		地域で開催されている事業所連絡会へは適宜参加をしています。	引続き関係機関との連携を図りながら支援をしていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		療育終了後5分～10分程お迎えに来た保護者とのフィードバック時間を設け、子ども達の状況や課題についてお伝えしています。また定期的に保護者面談を実施し情報共有を行っています。	引続き保護者様と綿密に情報共有をして支援をしていきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		日々の個別療育終了後保護者との情報共有の場を設けており、その中で事業所からご助言できることがあれば適宜実施しております。	日ごろの情報共有のみならず、保護者様の悩みを解決できるよう具体的な支援は何なのかを職員間で協議し実施していきます。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に保護者様への説明を実施しています。	引続き丁寧に説明をしていきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約前に保護者とのアセスメントを行い、支援計画の目標に関するご要望をお聞きします。また相談員がついてサービス等利用計画を作成されている方は事前に相談員との連携も図っています。	引続きガイドラインに沿った支援内容や保護者、相談員の考えなど踏まえて適切な支援計画を作成していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		担当職員または児童発達支援管理責任者を中心に事業所内での情報共有し必要な支援を実施しています。	今後、事業所内での対応が難しい場合は子ども発達支援センターや教育センター等へ協力を頂く等、必要な支援体制を整えていきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	開所してまだ事例がございません。	引続き必要な情報共有・連携を行えるようにしていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		日々個別療育の際には施設内にて見学されているため、適宜相談を受け入れる体制は整えています。即決回答が難しい場合は次回利用以降にて回答するよう対応をしています。	引続き相談の際には丁寧かつ迅速に対応していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		その日行う療育内容の取組内容を配布し、保護者へお渡ししています。また振返りに際はその用紙を元に意見交換をしています。	引続き保護者様に対して情報発信をしていきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		職員は契約時に個人情報保護についての誓約書を提出しています。	今度も事業所内で個人情報保護についての研修や勉強会を実施していきます。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚優位、聴覚優位などの特性を理解した上で情報伝達しています。	保護者に対して長時間による面談が難しい方は、電話連絡やお手紙等での配慮を実施していきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		営業時間内においては近隣住人の方が通りがかりで訪ねて来られるよう開かれた運営を意識しています。また実際に見学に来られ契約された事例もございます。	引続き地域交流の機会をつくっていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		本社と連携して各種マニュアル作成を行っています。	BCPIにかかる備品は教室に手配完了。相談室や教室入口に設置して誰でも閲覧できる状態になっています。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回社内ですべての災害時に備えての避難訓練を実施している。グループワークでも避難訓練のテーマにて実施をしています。	引き続き災害に備えて避難訓練を実施していきます。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメントの際に既往歴や診断、服薬状況の聞き取りをしています。	引き続きアセスメントの際に支援に必要なヒアリングを行っています。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書に基づき保護者様よりお聞きしたアレルギーについては職員で共有している対応を行っています。	イベントや長期休暇中の昼食時など引き続き個々のアレルギーについて職員間で共有、把握に努めていく。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成して職員全員が目を通すようにしています。	引き続き大きな事故を未然に防ぐようにヒヤリハットの作成をしていきます。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		集団指導や社内研修にて虐待防止のチェックシートを作成しています。	虐待防止委員会を設置して原則全員参加にて研修会を実施しています。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束の事例はありません。	身体拘束の前に改善できることはないか、職員間や保護者様、学校等と一緒に協議連携して対応していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。